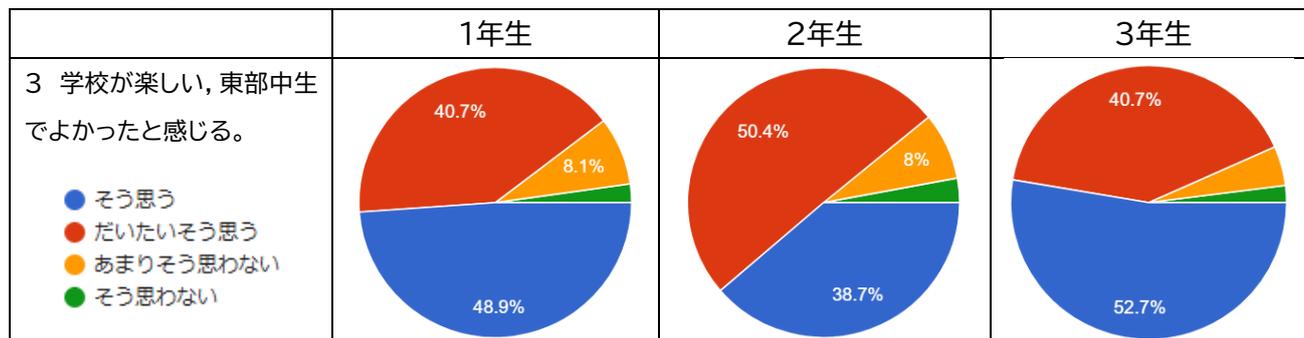


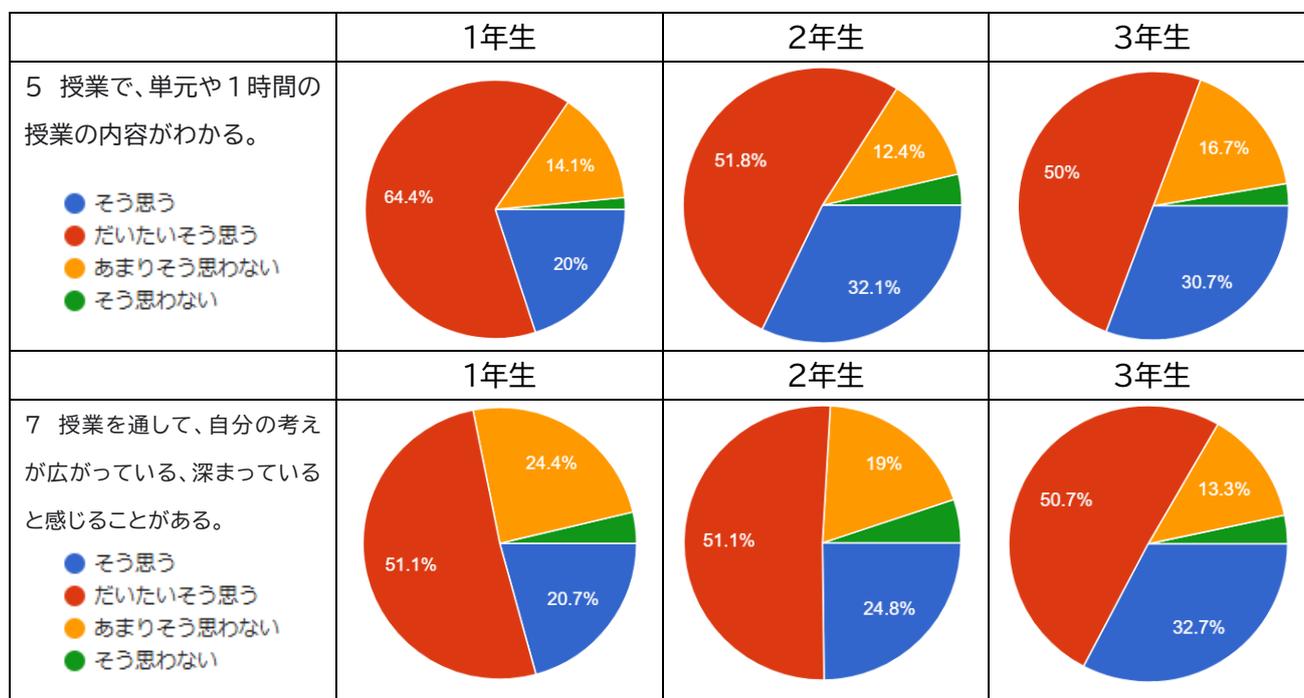
令和7年度 学校生活についての意識調査結果（生徒）

令和8年2月

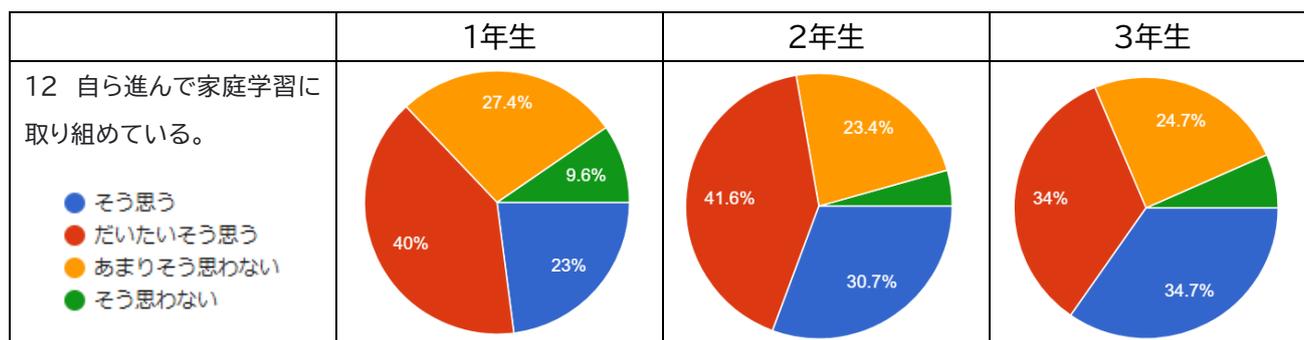
アンケート結果から

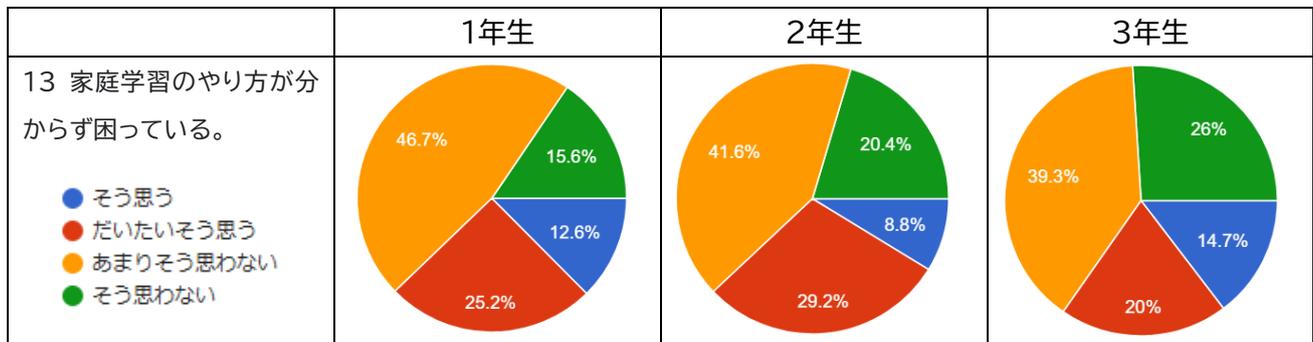


昨年度に続き、学校が楽しい・東部中学生でよかったと思っている生徒はどの学年も 90%近い数字になっていることが今の東部中学校の雰囲気につながっている。どの学年にもそう思わない生徒が約 20 名いる現状を忘れず、引き続き生徒に寄り添う姿勢を大切にしたい。

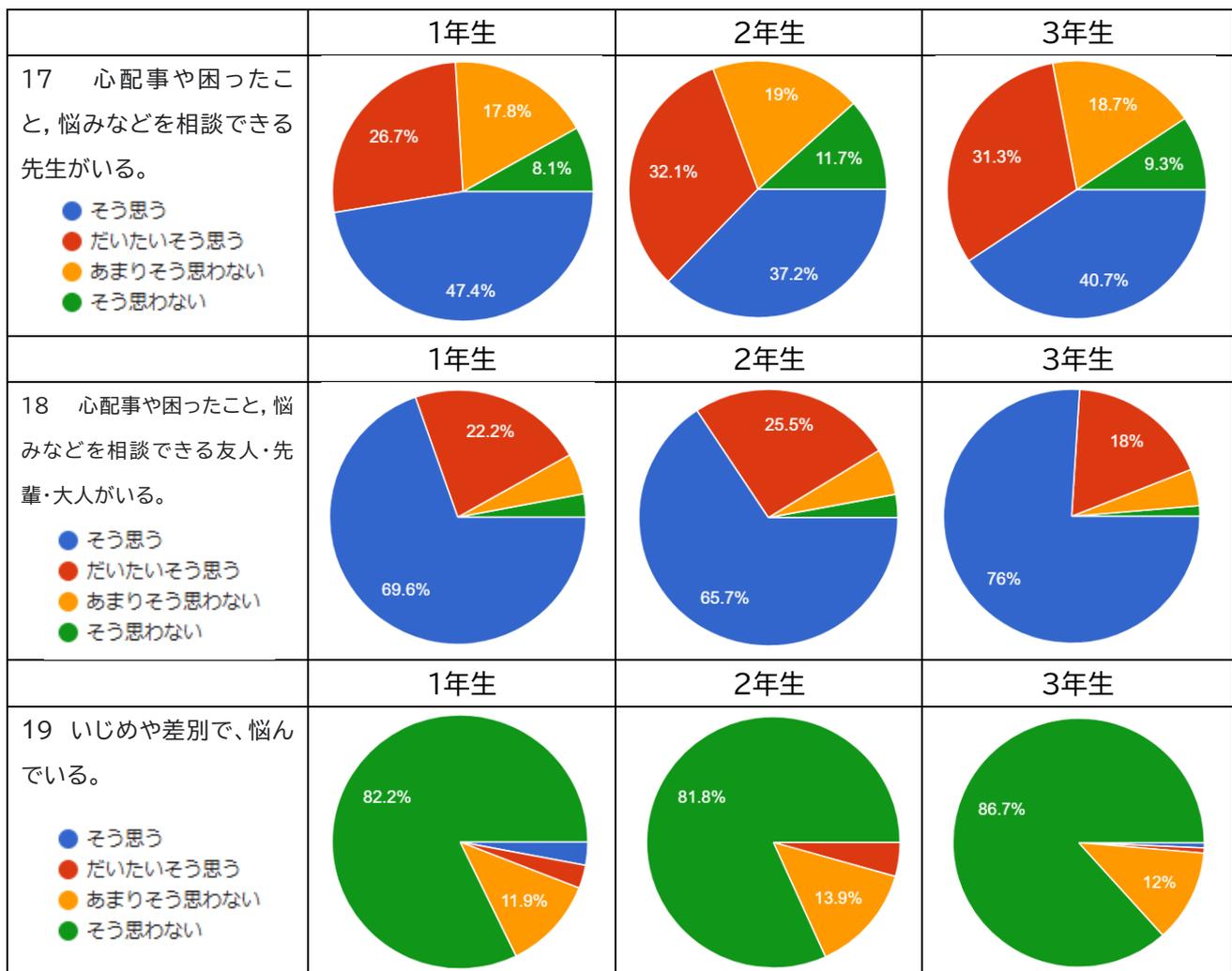


どの学年も 80%以上の生徒は授業が「わかりやすい」と返答しているが、自分の考えの広がりや深まりという点では 4 分の 1 程度の生徒が、「あまり思わない」「思わない」と返答している。学年が下がるごとにその割合が増えていることから、1 年生次から学びのスタイルを構築していくことができるように、さらなる授業改善を進めていく必要がある。





家庭学習については毎年多くの意見が寄せられている。生徒アンケート結果からも、自ら進んで家庭学習に取り組むことができていない生徒が多く、やり方が分からない生徒も多い。各教科・学習委員会でも家庭学習に対する支援を行っているが、まだ浸透していない様子が分かる。



どの学年でも90%以上の生徒が「心配事や悩みを相談できる友人・先輩・大人がいる」と回答している。子どもたちを取り巻く環境の中で起こる様々な問題に対して、相談できる相手がいるということはとてもよいことである。反面、25%～30%の生徒は、「心配事や悩みを相談できる先生がいる」という質問に対し、否定的な回答となっている。「子どもたちを真ん中において、包み込む東部中」を目指し、生徒に寄り添うことができる場づくりを心がけていきたい。

自由記述欄では、1. 2年生は日常生活の向上がよりよい東部中になっていくという意見が多く書かれていた。3年生では、生徒や教師との「つながり」を大切にしたい学校づくりについての記述が多く書かれていた。これからも生徒の声を大切にしながら、よりよい東部中学校を目指していきたい。